

◇ 道路愛称（歴史街道54）の決定経緯 ◇

一般国道54号線を軸に連担する八千代町～布野村(5市町村)は、中山間地域に位置することから、過疎化が進展しており、地域の活性化が望まれている地域である。一方、これらの地域は、豊かな自然環境と優れた史跡・名勝を有しており、地域活性化のポテンシャルが高い地域である。

このため、建設省(現、国土交通省)をはじめとした県、市町村の道路管理者においては、これらの地域特性を活かした道路整備を行うことにより、ゆとりと潤いのあるふるさとづくりを促進するために平成6年(1944)11月、「国道54号ふるさとへの道づくり検討委員会」(会長:建設省三次工事事務所長)を設置し、これまで道路及び道路施設整備イメージの設定とその具体的整備の方向性の検討を行ってきた。こうした中、八千代町～布野村間の一般国道54号について、対象地域全体を包括する統一イメージを表現する”道路愛称”を決定し、それをさまざまな道路及び道路施設のなかに表示することによって地域活性化を推進していく必要がある。このような状況から、平成7年(1995)12月から平成8年(1996)2月10日にかけて”道路愛称”を一般公募した。

平成8年(1996)4月26日には道路愛称審査委員会(会長:國原五十夫 建設省三次工事事務所長)が開かれ、「朝霧街道」「ふるさと神楽街道」「霧の三ツ矢街道」など約800の一般応募の中から「歴史街道54」に決定した。これは、沿線には吉田町の毛利氏史跡や三次市の古墳群など、古代から近世にかけての優れた史跡があることから、歴史的なかおりのする名称として選定されたものである。

国道54号は、島根県赤来町～宍道町が「出雲神話街道」、広島市内が「可部街道」とそれぞれ愛称がついており、これにより全区間の愛称が決定することとなった。

以下余白